

## [夏葉社](#) 島田潤一郎さん

### プロフィール

1976年、高知県生まれ。大学卒業後、アルバイトや派遣社員をしながら、ヨーロッパとアフリカを旅する。ア小説家を目指していたが挫折。2009年9月に33歳で夏葉社を起業し、ひとり出版社のさきがけ的存在に。14年に結婚し、同年に長男が誕生。16年に長女が生まれる。小説家を諦めた後に、教科書出版社の営業を1年経験。

### 著書

[電車の中で本を読む](#) 青春出版社 2023年4月刊

[本屋で待つ](#) 夏葉社 2022年12月刊 佐藤友則氏と共著

[あしたから出版社](#) ちくま文庫 2022年6月刊 他6名と共著

[父と子の絆](#) [アルテスパブリッシング](#) 2020年11月刊

◎[古くてあたらしい仕事](#) 新潮社 2019年11月刊 (リンク先に又吉直樹氏との対談 等掲載)

[途派文芸集 第1巻](#) [パブリック・ブレイン](#) 2016年11月刊

[あしたから出版社](#) 晶文社 2014年6月刊

### インターネット記事

好書好日 2020.04.01 朝日新聞デジタル

ひとり出版社「夏葉社」の島田潤一郎さん [拙速の失敗を避け、自省を促すための3冊](#)

婦人公論 2020年02月13日

[島田潤一郎「僕が社員ひとりの出版社を立ち上げた理由」](#)

産経ニュース 2019/12/17

[「誰かのための座右の書を」 設立10年、ひとり出版社「夏葉社」島田潤一郎の仕事原論](#)

北欧、くらしの道具店 【フィットするしごと】(下記、クラシコム しごとインタビューの再編集記事)

前編 [経験ゼロで立ち上げた「ひとり出版社」の10年](#) 2020年5月20日(水)

後編 [積ん読1000冊、働くのは5時間。ひとり出版社の時間割。](#) 2020年5月21日(木)

クラシコム しごとインタビュー ——夏葉社島田潤一郎さんインタビュー 2018.09.27

コネもお金も、なにもなかった。経験ゼロで立ち上げた「ひとり出版社」が、10年生き残った理由。[【前編】](#)

[積ん読1000冊、労働時間5時間/日。「書籍編集者」の時間割【後編】](#)

ShibuyaPublishing&BOOKsellers 2018.6.12

[穂村弘さん×島田潤一郎さんトーク「運命の本の探し方」「運命の作家との出会い方」](#)

Greenz 2015.10.17

[ほしいものをつくって生きる。100軒の本屋と1対1の関係を育む出版社「夏葉社」島田潤一郎さんに聞く、](#)

[「ほしい」と「売れる」のつながり](#)

マガジンハウス コロカル

[町のパン屋のような本屋とはいかに](#) 町の本屋制作ノート vol.002 2014.6.6

[島で考える、本と本屋のこと](#) 町の本屋制作ノート vol.003 2014.6.25

オピニオン 2012.02.06

[世の中に足りないものをやっていきたい](#) 夏葉社・島田潤一郎氏に聞く

その他、多数 [Googleで「島田潤一郎」と画像検索](#)